

平成 30 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 マクセルホールディングス株式会社
 代表者名 取 締 役 社 長 勝 田 善 春
 (コード番号：6810 東証第一部)
 問 合 せ 先 ブ ラ ン ド 戦 略 ・ 広 報 I R 部
 (TEL. 03-5715-7061)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 4 月 27 日に公表した平成 31 年 3 月期（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想を以下のとおり修正しましたので、お知らせします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 152,000	百万円 9,000	百万円 5,900	円 銭 111.66
今回修正予想 (B)	152,000	6,000	4,900	92.73
増減額 (B-A)	0	△3,000	△1,000	-
増減率 (%)	0.0	△33.3	△16.9	-
(参考) 前期実績 (平成 30 年 3 月期)	148,198	8,848	7,127	134.88

2. 修正の理由

売上高は、エネルギーセグメントにおいては民生用リチウムイオン電池が販売減となっているものの、産業用部材料セグメントでは粘着テープなどの販売が堅調に推移し、電器・コンシューマーセグメントでは株式会社泉精器製作所の子会社化による効果を見込んでいます。このため売上高の総額については、前回発表予想から変更しておりません。

一方で、利益面については、エネルギーセグメントでは民生用リチウムイオン電池の販売減による減益が見込まれます。また産業用部材料セグメントにおける原材料コストの増加による影響や新製品の量産化に向けた開発費の計上、電器・コンシューマーセグメントにおいては、株式会社泉精器製作所による増益が見込まれる一方で、エステ家電の販売不振による減益が見込まれることから、営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益ともに前回発表予想を下回る見込みです。

今後も、「共創共栄」をめざす成長スキームであるマクセルビジネスプラットフォーム（MBP）の積極的な推進により事業成長を図るとともに、プロジェクターやエステ家電についてはマクセルブランド新製品の導入による業績改善をめざします。

【通期セグメント別業績予想】

単位：百万円

	売上高		営業利益	
	今回予想	前回予想	今回予想	前回予想
エネルギー	39,300	45,600	2,400	4,400
産業用部材料	51,500	50,800	2,400	3,200
電器・コンシューマー	61,200	55,600	1,200	1,400
合計	152,000	152,000	6,000	9,000

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上